

共同教育学部になって3年目

— 母校の学びは今 —

母校の学びが大きく進歩発展しています。その一部を紹介します。

共同教育学部は、
学校教育教員養成課程1課程から成っており、4系13分野で構成

● 学校教育教員養成課程 (180名) 令和4年度入学者数

教育人間科学系	人文社会系
・教育分野 (12名)	・国語分野 (21名)
・教育心理分野 (12名)	・社会分野 (15名)
・特別支援教育分野 (18名)	・英語分野 (13名)
自然科学系	芸術・生活・健康系
・数学分野 (23名)	・音楽分野 (8名)
・理科学分野 (20名)	・美術分野 (6名)
・技術分野 (6名)	・保健体育分野 (16名)
	・家政分野 (10名)

● 教育学研究科教職大学院 (18名)



教員になるまでの4年間のカリキュラム

基盤教育科目	専門教育科目
教育実践科目群	
● 教職ボランティア入門 (2年次) 6月～2月 週1回 火曜日 近隣校や母校等	
● 教育実習 I・II・III (3年次) 附属学校園・公立小中学校 3週間授業	
● 教育実践演習 (4年次) 模擬授業	
● 特別支援学校教育実習 ※特支免許取得者のみ	

目次

同窓会会長と共同教育学部長からのメッセージ…	2	● 宇都宮大学共同教育学部同窓会について…	9
同窓会から学生への支援…	3	● 定期総会の概況…	10・11
懐かしい学生の頃…	4	● 「共同教育学部」はこんなところ…	12
現場からの声…	5	● 今も変わらぬ懐かしい風景…	12
今に生きる…	6・7	● 編集後記…	12
大学生生活奮闘中…	8	●	

同窓会会長と共同教育学部長からのメッセージ



ご挨拶

宇都宮大学共同教育学部同窓会会長
増 渕 茂 泰

皆様方におかれましてはご健勝のこととお喜び申し上げます。4回目のコロナワクチン接種通知が届いている方もおられ、まだまだ予断が許されない状況が続いております。そのような中、定期総会を実施する運びになりました。これまでの2年間の総会は書面での決議をいただきましたが、参加人数制限下ではありますが総会を実施でき大変うれしく思います。

大学では学長が池田宰様、学部長には加藤謙一様がご就任になりました。

第133回定期総会につきましては来賓の方々、また叙勲受章者、賀詞贈呈者の方々の参加をご遠慮いただき開催いたしました。栄誉に服された皆様、真におめでとうございます。

さて、会長をお引き受けしてから早くも3年目を迎え、コロナ禍旋風にあおられ多くの会員の皆様との交流の機会が失われたことが悔やまれます。幸い、会報をおして学生・現職教員・退職者の幅広いメンバーとの交流や、就職支援セミナーや就職支援室での同窓会員の目覚ましい応援活躍を、同窓会員に伝えています。

総会では亡くなられた方々をお知らせしておりますが、コロナ禍でお会いできなく旅立たれた方もおられます。先日、先輩 長竹和子先生の遺大作、未完成「惜春」を見せていただき、以前会話した「宇宙色」のことを思い出しました。長竹先生は以前の作品、「早春譜」S80号、金精山が題材で黒色に近い紺色をお使いでした。「私は以前にこの色を見たことがあります。グライダーで高度6,400mを極めた時（写真）です。真上に宇宙が見えたのです。」と。同窓生だからこそ親しく、会話をすることが出来ました。

最後になりましたが、各支部活動のご活躍と、会員皆様のご健康を祈念し、ご挨拶といたします。



ご挨拶

宇都宮大学共同教育学部学部長
加 藤 謙 一

本年4月より学部長に任ぜられました加藤でございます。就任にあたり一言ご挨拶申し上げます。同窓会の皆様におかれましては、日頃より共同教育学部へのご支援・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。本学部は共同教育学部となり、3年目を迎えました。この2年間は、コロナ感染拡大防止のため、多くの制約を強いられました。そのため、双方向遠隔メディアシステムを用いた斉一授業の稼働は滞りましたが、本年度からようやく通常の方法で開始されることとなりました。また、群馬大学の学生との集合授業（教職特別演習）も対面実施の方向で計画が進んでおります。新しいカリキュラムによる教育体制が動き始めております。こうした教育効果に対する評価は少し先になると思いますが、年度ごとに、その実施内容を精査しながら、よりよい教育環境を整えて参ります。

また同窓会の皆様方におかれましては、教育現場での実践におけるご指導や進路に関する相談にのっていただいております。特に教員採用試験対策では、論作文・個人面接・集団討論・模擬授業などを中心に丁寧なご指導をいただき、心より感謝申し上げます。

昨年度の現役学生の栃木県教員採用合格率は小学校73.7%、中学校53.3%、高等学校20.0%、特別支援学校62.5%で全体の合格率は57.1%と、厳しいものでした。言うまでもなく本学部の使命は、教育界に貢献できる教員を一人でも多く輩出することです。今後も学生たちの教員志向を高めつつ、教員採用試験の合格率の向上に努めて参ります。

折しもこの原稿を執筆している6月は、教員採用試験に向け連日、4年生は学部棟1階の就職支援室を訪ね、準備に余念がありません。こうした学生の努力が実を結ぶように、就職セミナー指導員、学部教員が協力しております。今後とも同窓会の皆様には変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



高度6,400mから



「初夏」 美術分野2年 中村 彰吾

同窓会から学生への支援

共同教育学部の学生の就職に役立てるよう、
同窓会員が支援



教職の道をめざしている皆さんへ

教職セミナー指導員

大野 薫

面接指導のお手伝いをさせていただくようになり、4年になります。教育現場を離れて久しく、不安もありますが、爽やかで深刺とした皆さんに接し、少しでもお役に立てればと思っています。

面接を通して毎回感じるのは、教職の道をめざし、真摯に向き合う皆さんの姿勢の素晴らしさです。そして思うのは、本校の皆さんにはぜひとも教職に就いてほしいということと、必ずや期待に応える人材になるという思いです。

これからの人に話す機会に手にしてきた本の中で、好きな言葉があります。「最初の数秒間で相手に好印象を与える方法は、心を込めて微笑むこと」「何をしてもうまくいく人とは、障害にもめげずに、ひたむきに打ち込む姿勢のある人」「自分との関係が良好な場合に、他人と良好な関係を築くことができる」などです。どうぞ、皆さん自身の良さを信じて頑張ってください。



応援してます！

就職支援室指導員

中村 ひろみ

昨年度から、就職支援室で教員を目指す学生の支援をしています。進路等の相談や過去問集の貸し出しをはじめ、論作文の添削、個人面接や集団討論の練習等が支援の主な内容です。

支援室を訪れる学生たちは、教師になりたいという熱い思いを持って日々努力しています。個人の勉強はもちろん、教育について仲間と議論し、励まし合い高め合おうとするその姿は、次代の教育を担う者として十分な資格を備えていると感じています。どの学生も自分のよさを存分に発揮して教員採用試験を勝ち抜き、自分の目指す教育を現場で実現してほしいと願います。

支援室にできるのはほんの小さなことですが、学生一人一人がここで得たことを肥やしにして、教員として確かに歩んでくれたら、こんなに嬉しいことはありません。これからもずっと応援していきます。



先生方のたくさんのご支援

教科教育コース 社会分野卒

井上 達貴

私は今年度から、小学校の教員として働いています。元気な子どもたちと、充実した教員生活を送れているのも、就職支援室の先生方のご支援があったからです。

私は大学3年生のころから、教員採用試験対策で就職支援室を利用させていただきました。支援室の先生方には、論作文の添削や集団討論、面接の対策等をしていただきました。論作文は教員採用試験の半年前から、毎週先生方に添削していただいたおかげで、本番でも緊張することなく、落ち着いて書くことができました。論作文のご指導は支援室の先生方が一対一で対応してくださるので、色々なアドバイスをいただける貴重な機会でした。その中でも、先生方の教員時代の経験談を聞いたのは良い思い出です。教員を目指している方は、就職支援室を訪れてみてください。皆さんの夢が実現することを願っています。



先生方の手厚いサポート

教科教育コース 数学分野卒

小谷 舞華

私は今年度から中学校の数学教員として働いています。多忙ながらも、充実した毎日を過ごしています。中学生の時に憧れた「先生になる」という夢を叶えることができたのも、就職支援室の先生方のサポートのおかげです。

大学4年生になってすぐから就職支援室を利用させていただきました。論作文の添削指導の際には、毎回とてもためになる指導をしてくださいました。試験当日も自信を持って論作文試験に臨むことができました。また一次試験が終わると、毎日個人面接と集団討論の練習を開催してくださいました。たくさん練習に参加したからこそ、合格することができたのだと思います。

就職支援室の先生方はとても親切で、的確な指導をしてくださいました。皆さんもたくさん通って夢を叶えてほしいと思います。頑張ってください。

懐かしい学生の頃

大学を卒業した皆様の当時の思い出



今の私がいる理由

南河内支部 鈴木文香

私が入学した年のメンバーは、後輩たちから見て“仲のよい先輩たち”らしい。確かにみんなで食事をするのは当たり前だったし、事あるごとに遊びに行き、それぞれの誕生日にはお祝いをした。学祭や研究旅行の計画、卒業制作展の運営も、みんなで行うために、打合せの日程を自分たちで決めて進めた。卒業式の日は離れがたくて、送別会後も日が昇るまで共に過ごした。細々としたトラブルはもちろんあったが、彼らのおかげで最高の4年間だったと胸を張って言える。仲間と成し遂げることの尊さは、彼らから教えられた。

今ではほぼ会えなくなったが、人生の節目は必ず報告し合う。先日は制作した絵本が出版されると聞いた。教授たちに教わったことはもちろんだが、この出会いも、私にとってはかけがえのない宝だ。



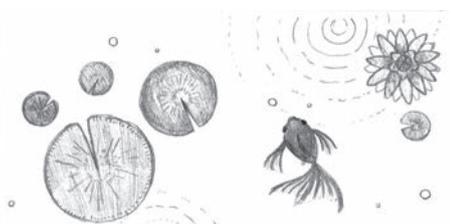
いつでも蘇るあの頃のこと

西方支部 石川幸子

学生時代を振り返ると、真っ先に蘇ってくるのが、フランス式庭園、通称「仏庭」です。当時は生協が仏庭のとなりであり、昼時には大勢の学生たちが集まって、ガラス越しに仏庭を眺めたり、ベンチでお昼を食べたりし、学部の違う友達ができたりもしました。

仏庭の近くには、音楽系のサークルの部室がありました。マンドリンやバイオリンの音色、ドラムの音などが時折流れてきて、それぞれがやりたい事を思いっきりやるのが大学生なんだと実感しました。

勉強したり遊んだり、友達と悩みを分かち合ったり初めての事に挑戦したり、どうにもならない事に出会ったりし、多感な時代を過ごしたこの4年間は、私にとって、何にも変えがたい、今でも色鮮やかに蘇る、とても貴重な時間でした。



「蓮と金魚」 美術分野2年 上野 雅奈



考古学研究会と共に

大平支部 齋藤真理

私の大学4年間は、サークル「考古学研究会」と共にありました。会員は、全学部から集まった考古学好きな素人たちですが、実際の活動は他大学の考古学専攻にも驚かれるほど専門的だったのが、私の誇りです。

休日には、全国各地の遺跡を訪れました。学生ならではの貧乏旅でしたが、余りある時間を有意義に使うことができた贅沢な旅だったと懐かしく思います。春と夏の1カ月超の合宿所生活では、前方後円墳の測量と発掘調査をし、大学に戻って出土遺物の分析、測量図の作成、会誌『峰考古』の編集、各専門機関への発送まで全てを、苦勞しつつも楽しくやり遂げました。その大きな支えは、石部正志教授や研究会OBからの温かいご指導と、苦樂を共にした愉快的仲間たちでした。

宇都宮大学での経験は、教員生活において、私に自信と勇気を与えてくれます。



「密」に過ごした日々

藤岡支部 石川瑠璃子

大学を卒業して、2年が過ぎました。懐かしむほど遠い日の記憶ではありませんが、学生の頃を思い出すことがよくあります。

振り返ると、私の学生生活は「密」そのものでした。アカペラサークルに所属し、授業の空きコマや放課後は、飽きることなく仲間と歌の練習をしました。教育実習や学校ボランティアでも、現場で子どもたちと触れ合う機会を多く作っていただきました。

私には大学生の弟がいます。入学式の中止や突然のオンライン講義の開始で思い描いていた大学生活は送られていないようです。人との触れ合いで得られる経験や愉しきは、かけがえのない尊いものだったことを実感しています。

子どもたちが同じような喜びを手に入れる日が来ることを切に願っています。

現場からの声

教職に就いて活躍している人の
メッセージ



ICT教育の充実に向けて

壬生支部 正親 秀章

宇都宮大学保健体育専攻に入学後、大学院に進学。研究室では、野外教育を専門としてきた。そこでのご縁もあり、宇都宮市にある「冒険活動センター」での職員を在学中に経験させていただくことができた。また、研究室の先生をはじめ、内地留学でいらっしゃる現場の先生方や先輩方、同期や下級生にも恵まれ、たくさんの素敵な出会いの中で、新たな価値観を知ることができた。現場に出る前に、教育に対するマインドを得た経験は、今でもとても大きいと感じる。

現在、Society5.0の社会が目前に迫ってきている中、ICTを活用した教育が急務となっている。教員として、一個人として何ができるのか。今後とも人との輪を大切にしながらICTを活用した教育の可能性を日々模索し、これからの時代に対応できる子どもを育成していきたい。



協働で支えられている学校現場

国分寺支部 塩田 理紗

教職について10年目を迎えた。10年間という時間が短く感じる程、教育の現場は目まぐるしく変化し続けてきたと感じる。子どもたちは日々、成長していく。毎日の生活の中で同じ瞬間というものは存在しない。そのため、どんなに経験を重ねても、慣れることができない事例も多く存在する。

しかし、そんな中でも日々、子どもたちと向き合っていけるのは学校が多くの人達に支えられているからだと感じる。困った時には周りの教員に相談し、よりよい策を講じる。それが結果的には、より多くの目で子どもたちを見守ることに繋がっていくように思う。近年、働き方改革が叫ばれている一方で、仕事の内容は複雑化、多様化する一方だ。同僚とどのように協働していくか、大きな課題であると感じている。



「思い出」 美術分野2年 高崎 翔

教員冥利に尽きること

佐野支部 江田 貴史

教職について15年、若い頃は目の前のことをがむしゃらに行ってきた。年を取っていくうちに様々な校務を担当させていただき、学校のことも少し考えることができるようになってきた。しかし、子どもたちと毎年過ごしていても、「この1年成功だった!」と自信をもてたことはない。一人一人違う子どもたち、同じ学年を担当しても、同じことの繰り返しはない。

そんな折、教員冥利に尽きるがあった。ある年の年度末、新聞に載った教員の新規採用欄に過去に担任した児童の名前を見付けた。後日、本人から連絡があり、話をしたところ、教員をめざしたきっかけが、自分との出会いだったと聞いた。この話を聞き、自分のやってきたことが正しかったと感じられたのである。結果がすぐに見えない教員という職業。数年後にやってきた結果は教員冥利に尽きるものであった。

「教師」という職業に就いてみて

塩谷支部 三上文也

今年度で、教員になってから5年目になる。今まで、多くのことを体験してきた。嬉しいこともあったし、悩んだり、迷ったりすることもあった。その度に、多くの先輩方に助言をいただき、実際に試してみた。成功したこともあったし、改善しなければならないこともあった。この五年間で得たことはとても多い。

1年目のころは、大学で学んできたことを使いながら、新しいことにもチャレンジしながら過ごした。年数を重ねるうちに、今までの経験をもとに実行することができるようになった。しかし、教師という仕事は永遠に勉強することが必要な職業だと思っている。これからも多くのことを勉強し、生徒と関わっていきたいと思っている。



「ごほうび」 美術分野2年 矢作 琴子

今に



二段熟成?

日光支部 杉本 裕一
昭和58年度卒

「知識は、吸収してからすぐではなくて、体内で充分熟成してからが本物の知識となり、よい味を醸し出してくる。」

わたしなりに解釈した、記憶の中での印象的な言葉であるが、確か外山滋比古さんがエッセイの中でこのような趣旨のことを述べていたような気がする。

恥ずかしながらわたしも、このようなことの追体験を味わった思いがある。学生の時に座学で得た教育的な知識が、現場での様々な実践の裏付けを得て体内で熟成し、在職中の晩年には、生きた知識として、実感を持った自分なりの言葉となって、少しずつ表現できるようになった気がしている。

そして今、退職を迎えて、これまで概念的、体験的に得てきた教育的知識を、現場から離れた視点を加えつつ、もう一度体内で熟成させ、さらにより味を醸し出す自分なりの言葉で表現できるよう、まさに「二段熟成?」させていきたいと考えている。味わい深い、実感の伴った自分なりの言葉で、教育について語れば…と、体内での熟成具合に期待して、楽しみに生活していきたい。



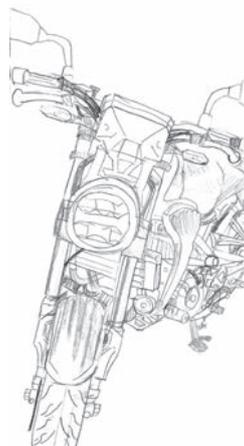
家庭相談員として

大平支部 山田 恒夫
昭和57年度卒

昨年3月に教職を退き、現在市役所の子育て支援課で家庭相談員として働いている。現職中は、教職に就くつもりでいたが、教育委員会から「家庭相談員をやりませんか」という電話があり、仕事の内容もよく聞かず、やってくれる人がいないので困っているのではないかと思い、引き受けた。

仕事の内容は、主に虐待対応が中心で、問題のある家庭を訪問し話をしたり、電話での相談を受けたりしている。中学校の教員だったこともあり、虐待に対する認識がなく、虐待をされている子がたくさんいることを知り驚いている。虐待に至る要因は様々で、改善に向けて根気強く話をしている。場合によっては解決できない家庭もあり、最終的に施設に預けられたり、里親に出されたりする子もいる。

今までは、中学校3年間で生徒を育てようとやってきたが、ここでは生まれてから成人になるまで対応している。親はいろいろな問題を抱え、苦勞を重ねながら子を育てている。すぐには解決できないことも多い。本人はもちろん家族が幸せに過ごせるように、少しでも手助けができればと考え仕事に取り組んでいる。



「風」
美術分野2年
山岡 晃大

生きる

退職し、第二の人生を歩む人の今



恩返しのリレー

岩舟支部

印出 雅昭
昭和58年度卒

令和3年度をもって、定年退職を迎えました。退職して3か月。今は、再任用教員となり、初任者指導教員として、週3日、2校の小学校に勤務しています。

着任してすぐに担任として学級経営に取り組まなければならない初任者の先生たち。戸惑いながらも必死に頑張っている姿に、日々感動しています。それと同時に、自分の初任の頃に思いが及びます。「自分は、こんなに頑張っていたのだろうか。」「あの時は大失敗したな。」等、懐かしさとともに恥ずかしくもあります。指導して下さった先輩の先生方のお言葉が、今になって実感をもって腑に落ちることもありました。

「恩送り」という言葉があります。40年近く前に頼りない自分を温かく見守ってくださり、指導して下さった先生方に恩返しすることは、今となっては難しくなっていました。自分がいただいた温かいご指導・ご支援を、目の前の初任者に少しでもリレーできればと思います。

退職して、少し時間に余裕ができました。まずは健康第一で過ごし、やりたいと思っていたことに、少しずつ挑戦していきたいと思っています。



自然はすばらしい

佐野支部

藤川 悟
昭和52年度卒

退職して1年間のはのんびり暮らした。しかし2年目からはそうはいかなくなった。緑化推進員、町会長、退公連の役員など引き受けざるを得なくなり、急に忙しくなった。緑化推進員とは、緑化コンクールの審査をしたり、学校の緑化活動の支援をするのが仕事である。唐沢山の麓にある学校から依頼があり、野草を調べる野外観察の講師をすることになった。5月は多くの花が咲いていて、児童も担任の先生も夢中で観察したり写真を撮ったりしていた。しかし児童も先生もほとんど花の名を知らない。児童はともかく先生も同レベルとは何とも寂しい限りである。6月になると花の数が急に減り、実が目立ってくる。だれかが黒く熟したクワの実を見つけた。「これ何ですか？

食べられますか？」と聞く。今の子にとってクワの実が新鮮なのだ。食べてみるとおいしい！クサイチゴという木イチゴも見つけ夢中でほおぼる。こうなると花より団子である。必死にクサイチゴを探し求める子どもたちであった。野外観察はこの後10月まで続き、冬はコウゾ和紙づくりに挑戦する。年間を通した総合学習により、自然が好きになる子どもたちになればと願っている。



60才は人生の折り返し

足利支部

村山 哲也
昭和56年度卒

教員になった年に参加したレクリエーションの講習会で「余暇が充実しているフランスでは定年退職までに100種類の趣味を体験し自分に合ったものを見つける。」と聞いた。それならば、とゴルフ・スキー・合唱・そば打ち・ギター・各種ボランティア・キャンプ・マラソン・パン作り・バンド活動…100種類には及ばないが仕事第一の信念のもと、結婚後も家族と折り合いをつけながら次々と新しい趣味に挑戦した。それは、自分だけの楽しみに終わらず、時には家族を巻き込み、さらに学校での仕事に生かされたから一石二鳥だった。(と自分では思っている。)

60才は人生の折り返しという。定年退職を機にレクリエーションボランティアとバンド活動の経験を活かし「音楽的人生」という会社を起業した。月の予定表を自分で作成し仕事？をしている。毎日違うチャンネルでの生活は、緊張感はあるもののわくわくすることも多い。午前中は読み聞かせボランティア、午後は公民館で講演活動。明日はギターと機材を積み込んで友人とフォークソングの出前コンサート…こんな日々。折り返した人生、何処へ向かっていくか自分でも楽しみだ。



「花鳥」美術分野2年 中島光

大学生生活奮闘中

共同教育学部の今
がんばっている人の言葉



まずはよく「見る」ことから

芸術・生活・健康系美術分野 准教授

株田 昌彦

「デッサンとは形態のことではない。形態を見る見方のことだ。」これはバレリーナを描いたことで有名なフランスの画家エドガー・ドガが残した言葉です。絵画や彫刻、デザインなど美術の多くのジャンルは視覚芸術とも呼ばれるように「見る」という行為に依拠しています。そのためデッサンは現在でも美術の基礎として位置付けられ、本学の美術分野の入学試験でも実技試験として実施しています。また、対象を見る力を意味する言葉として「デッサン力(でっさんりょく)」が美術では一般的に使われています。

私が担当している絵画の実技授業は主に美術分野の学生が受講します。デッサンの課題を通して対象の見方を改めて鍛えることから始まります。静物、風景、人物など描く対象は様々ですが、「見る」のはこのようなモチーフやモデルだけではなくありません。制作途中の作品も重要な対象となります。そのため、授業では毎回描画の前には目標を、描画後には感想等をポートフォリオシートに記述するよう指導しています。ただ描画するだけではなく言葉として記録することで、振り返りの資料とすることができます。学期の中間と最後には課題として描いた作品を一堂に並べ、講評会を行います。その中でお互いの作品の特徴や改善点などを述べ合い、表現に対する見方の深化と共に、教育実習で求められる児童生徒へのコメント能力の向上を図っています。

この度8号館B棟1階の廊下に作品展示のためのケースを設置しました。美術分野の実技授業の課題作品などを展示しています。作者がどのような思いで作ったのか、見ていただけると幸いです。



デッサン授業風景



ポートフォリオシート



聴いて伝える力

人文社会系 国語分野

金原 有香

2年生になり、分野ごとの講義を受ける機会が増えました。それに伴い、群馬大学との双方向型遠隔授業システムを活用した刺激のある学びが実現していると感じています。遠隔ゆえに制限もありますが、学内の分野やクラスの垣根を越えた交流に加え、群馬大学の学生との交流によって、多様な考え方に触れることができています。

そうした中で、常に意識しているのは、1年次に学んだ「教員は人間関係のプロである」という言葉です。昨年度の一部オンライン授業では、対面とは異なる形式の講義に戸惑いもありましたが、言葉の選び方や言外の情報を丁寧に受け取る姿勢など、対話における配慮の重要性を学びました。こうした経験を基に、対面、遠隔ともに相手の話を聴く力、分かりやすく伝える力を身につけ、様々な学生との交流をより充実したものにしたいと思っています。



私の目標

自然科学系 技術分野

落合 咲葵

大学入学してからこれまでを振り返ると、コロナウイルスの影響により一瞬で過ぎ去ったような怒涛の2年間であったと痛感する。だが、休んでいる暇はなく教育実習や職業の最終選択が迫っている。周囲の友人はすでに準備を始めていたり、大学卒業後の道を定めていたりしている。自分は周りの流れについていけないのか不安になる。

そのようななかでも今の自分に何ができるのか考えた結果、一般教養など社会に出ていくうえで必要とされる全般的な知識を身につけることにした。今取り組んでいることが吉と出るか凶と出るかは正直見当がつかない。しかし、今自分にできる最大限の努力が今後想像する卒業後の理想に少しでも近づくと信じて取り組んでいく。そのためにはまず、目先の教育実習と自習の両立を成し遂げていきたい。

宇都宮大学共同教育学部同窓会について

宇都宮大学共同教育学部同窓会は、栃木師範・女子師範・青年師範・宇都宮大学教育学部（学芸学部）が、幾多の変遷を経ながら一体となって、昭和43年に「宇都宮大学教育学部同窓会」として誕生しました。令和2年度には、共同教育学部と学部名が新たになり、令和3年度から、共同教育学部同窓会としました。令和4年度で、146年という輝かしい歴史と伝統をもつ団体です。その間、同窓生は児童・生徒の教育に情熱を傾け、本県教育の中心的な存在として活躍してきました。また、教育以外の分野でも、各方面で活躍されています。

同窓会では、ねらいを「母校の発展に寄与すると共に、会員相互の親睦と資質の向上を図る」としています。

活動内容は下記の通りです。

母校である宇都宮大学への協力

- 宇都宮大学基金への協力
- 新入生歓迎会の協力（令和4年度は実施できずに入学祝としてファイルを配付）

- 入学・卒業時に、学生への記念品贈呈
- 就職対策セミナーへの支援・資金協力
- 就職支援室への協力
- 災害時における対応（見舞金）
- 施設の新設・改修への協力
 - ・学生のサークル活動施設（コスモス）の新設（H17年度）
 - ・宇都宮大学まなびの森保育園の新設（H18年度）
 - ・宇都宮大学旧講堂の改修（H19～22年度）
 - ・教育学部音楽棟の改修（H25～27年度）

同窓会員の親睦

- 総会（県・各支部）・懇親会の開催
- 役員会・理事会等の会議の開催
- 現職会員と終身会員との話し合い・交流
- 会報（年1回）の配付
- 会員の慶弔に関する事業

就職支援

共同教育学部の学生が、資質豊かな教員になるため、以下のような支援をしています。

1. 就職セミナー

教員採用試験対策春期セミナー（集団面接指導・論作文個別指導／4年生対象）

教員採用試験対策夏期セミナー（個人面接・集団討論／4年生対象）

教員採用試験対策秋期セミナー（論作文個別指導／3年生対象）

- 集団討論・面接担当者：瓦井千尋・大野 薫・高梨敏朗
- 論作文担当者（論作文の添削も含む）：綱川芳孝・木村のり子・柏崎純一・石川宗子
渡邊昌子・小貫敬子・大沢智恵子

2. 就職支援室

就職に関する全般の指導を常時行っています。（月～金／10：20～16：20）

※今年度も「3密」を避け、例年以上に細やかに指導しています。

- 就職支援室指導員：刀川恵子・中村ひろみ

●令和4年度に終身会員（退職者）になられた方

【宇都宮支部】朝倉真美・鈴木 裕・手塚 浩・長谷川智・高橋 司

【芳賀支部】大島政春・大根田佳夫・加藤香都子・那花幸子・堀野茂樹・山口恵子・横山春美

【石橋支部】茅島 敦

【大平支部】中山 観

【小山支部】青木清治

【栃木支部】神澤 亨

【佐野支部】豊原 守・野城久雄

【足利支部】須田淳一

【那須北支部】井上謙一・大平智加子・白石竹美・助川千恵子・深谷雅明

【南那須支部】船山俊子・碓氷正和・池澤洋子・川上幸男・永森正俊・渡邊綱男・鈴木三男・高野千恵子・井上邦夫
高橋仁市・大森幸子・鈴木光子・大喜正昭・八田洋子・萩原秀子・小泉トヨ・吉澤キヌ子・宮本京子
大野千恵子・荒井博子・藤田カツ子・高田榮順・小林弘志・小川成一・水井安廣・小森雅代・小林洋子
村上和男・藤田悦子・藤田富司・飯塚牧子・石川周一・増淵けい・川俣まゆみ・滝原一夫・田代和義
小林暢子・川原良明・大金由利子・滝原陽子・高堀孝男・坂本 勉・久郷雅子・坂本紀子・川上ひより
久郷暢之・鈴木 弘・小松貴子・小林智子



就職セミナー支援風景

叙勲受章者への賀詞贈呈 おめでとうございます

◎秋の叙勲	酒井一行 様 (小山)	菊池正治 様 (那須北)			
◎春の叙勲	諏訪文敏 様 (日光)	若井祐平 様 (足利)	池澤 勤 様 (小山)		
◎高齢者叙勲	大高良三 様 (宇都宮)	大武捷良 様 (宇都宮)	鈴木宣次 様 (宇都宮)	小倉 茂 様 (日光)	
	檜山 誓 様 (日光)	菊池信行 様 (芳賀)	木村敏夫 様 (芳賀)	塩田健治 様 (芳賀)	
	芝山功甫 様 (芳賀)	高久幸次 様 (芳賀)	丸山悦郎 様 (芳賀)	矢口雄一 様 (芳賀)	
	矢島 達 様 (芳賀)	涌井一郎 様 (芳賀)	福田 緑 様 (佐野)	山口 仁 様 (佐野)	
	鈴木 繁 様 (佐野)	秋山正二 様 (足利)	大橋 基 様 (足利)	茂木啓一 様 (足利)	
	青木洋子 様 (塩谷)	伊東 徹 様 (塩谷)	金子 宏 様 (塩谷)	土屋佳雄 様 (塩谷)	
	和気敏幸 様 (塩谷)	池澤 武 様 (那須北)	石川規矩也 様 (那須北)	植竹 赳 様 (那須北)	
	君島真二 様 (那須北)	相馬重義 様 (那須北)	森 裕志 様 (那須北)	秋元 忠 様 (南那須)	
	佐藤 肥 様 (南那須)				

退任者への感謝状贈呈 お世話になりました

北見 修 様 (副会長)	豊田 充 様 (副会長)	高橋 司 様 (副会長)	戸部義則 様 (副会長)
山中武史 様 (河内北支部長)	吉澤 勝 様 (上三川支部長)	三坂典子 様 (南河内支部長)	岡本一穂 様 (日光支部長)
生井孝雄 様 (芳賀支部長)	大岡 裕 様 (都賀支部長)	加藤義勝 様 (国分寺支部長)	福田隆浩 様 (野木支部長)
関口利美 様 (岩舟支部長)	野尻俊二 様 (栃木支部長)	豊原 守 様 (佐野支部長)	竹内悦朗 様 (足利支部長)
高田榮順 様 (南那須支部長)			

令和4年度同窓会役員・支部長名簿

【役員】

- 客 員：池田 宰・加藤謙一
- 顧 問：柴田 毅・松本展壽
- 会 長：増淵茂泰
- 副会長：橋本和英・土屋周平・五味淵俊夫
高梨敏朗・間宮栄二・堀田由美子
大越浩子・小野浩司・新村雅司
- 監 事：市岡正嗣・渡邊昌子
- 事務局：大沢智恵子・高尾亮子

【支部長】

宇都宮	増淵茂泰	上三川	小嶋真穂
南河内	鈴木文香	西 方	船田美里
日 光	浅川邦彦	芳 賀	片岡康夫
都 賀	松本頼夫	壬 生	北見 修
石 橋	土屋周平	国分寺	塩田理紗
大 平	亀田浩史	野 木	根岸裕美
藤 岡	小川三枝子	岩 舟	梶木佳子
小 山	森下 尚	栃 木	森加奈夫
佐 野	立川公重	足 利	神林孝文
塩 谷	五味淵俊夫	那須北	豊田 充
南那須	近藤 正		



会長あいさつ



退任者への感謝状贈呈



大学歌斉唱



受章者への賀詞

コロナ禍における学生支援 (第1回目)

7月3日(日)の定期総会時にその他の議案で議決されました「コロナ禍における学生支援」が下記のとおり行われました。

日時：令和4年7月28日(木)・29日(金) 12:00~16:00

場所：8号棟C棟1階 北側入口東 同窓会事務室

対象：親元を離れて自活する共同教育学部生の希望者(同窓会員でなくてもOKです。)

内容：生活支援として『マスク・食品・学生協食券』をまとめて一袋にして配付
(今回は105袋限定、先着順)

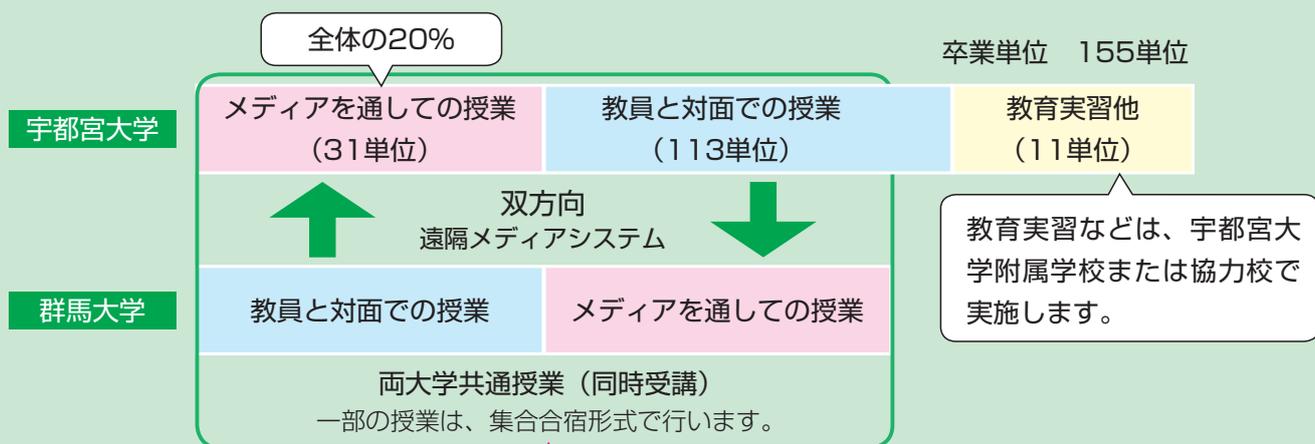
支援物品を受け取った学生の皆さんは「ありがとうございます」と感謝していました。そのアンケート結果を紹介します。

- コロナ禍の中、マスクをいただいですごく嬉しいです。お食事券もいつも食堂で食事をしてるため、本当にありがたいです。
- ちょうどバイトが減って苦勞していたところなので助かりました。
- 日常的に役立つ物が多くとても助かりました。
- このように支援をいただくことにより同窓会と学生とを繋ぐよいイベントになると思った。



「共同教育学部」はこんなところ

宇都宮大学にいながら、遠隔で群馬大学の教員の授業を受講することができます。



- 専門教育の充実（メディアシステム等を通じて、両大学の教員から卒業研究の指導を受けることも可能）
- 特別支援学校教諭養成範囲の拡大（5領域 — 知的障害・肢体不自由・病弱者・聴覚障害者・視覚障害者）の免許状取得可能（オープンキャンパスパンフレット参照）

今も変わらぬ懐かしい風景



本部棟南の庭園



UUプラザ



武道場



正門のしだれ桜

編集後記

第130号は、「共同教育学部の今」を特集しました。共同教育学部になって3年目。母校の学びは少しずつ変わってきています。そのほんの一部ですが、紹介しました。

新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言によって、大学は、オンライン授業、A・Bグループに分けた授業など、様々な工夫をして学生の学びを確保してきました。また、ロシアによるウクライナ侵攻にも、大きな衝撃を受けました。このような未来を誰が予想したでしょう。一日も早く、平和な日常が戻ってきますように。

お忙しい中、貴重な原稿をお寄せくださった皆様、ありがとうございました。

【編集委員】大越浩子・小林純子・徳永幸子・大沢智恵子・高尾亮子